赤水の業績、動画で紹介

資料や専門家の解説

顕彰会と地図学会

オンラインイベント

地理空間情報に関わる最先端技術を紹介するオンラインイベント「G空間エキスポ」内で、高萩市出身の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の業績や地図の特徴を解説する動画が公開されている。長久保赤水顕彰会と日本地図学会が連携して撮影・編集。赤水について広く知ってもらうツールの一つとして活用していく考えだ。

G空間エキスポは、地図や衛星測位などから得られる位置と、位置にひも付けられた「G空間（地理空間）情報」に関するイベント。産学官による運営協議会が主催。20日本輿地路程全図」（赤水10年から開かれているが、図）を作成するなどした赤水の業績を分かりやすく伝えるとともに、地理教育への普及を推進しようと両会が協力して作成。イベントのホームページで2本公開している。

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン開催となり、各機関が動画を配信している。27日まで。

赤水関連の動画は、「改正

一つは、同市高萩の市歴史民俗資料館に展示されている赤水の関連資料のほか、赤水が地図上に書き残した不思議な現象の記述を題材にした絵本「りゅうのひかり」の紹介などの内容。

もう一つは、日本地図学会常任委員長で日大経済学部の卜部勝彦教授と、歴史地理学会長で茨城大教育学部の小野寺淳教授が、地図について専門家の目線で詳しく解説する。

小野寺教授は、1779年に作成された赤水図の初版と91年の二版を比較し、「二版は沿岸航路や海流が描かれている。地名、地理情報も豊富になっている」と説明する。

卜部教授は同館に展示されている拡大地図に乗りながら、赤水図には山脈や河川の本流・支流、最近噴火した火山の噴煙マークが描かれているなどの特徴を解説。「地図からマークを探すことも大変意味があると思う」と強調した。

動画投稿サイト「ユーチューブ」でも公開している。今後、地図学会の会合などで活用される予定。（小原瑛平）

動画の撮影を行う長久保赤水顕彰会と日本地図学会の関係者ら＝高萩市高萩